

2022 1
No.57

新春号

JR札幌病院広報誌

ほつとネット

Contents

P1 卷頭言

新年のご挨拶
院長 四十防 典晴

P2 特集

薬薬連携
薬剤科 薬剤師 菅野 慎哉

P3 診療科発

産婦人科の紹介
産婦人科 科長 山中 郁仁

P4 部門紹介

リハビリテーション室の紹介
リハビリテーション室 技士長 夏目 健文

P5 地域発

医療法人社団 モリタ内科胃腸科クリニック
院長 森田 幸悦先生

P6 連携医療機関を対象としたアンケート調査の結果報告

地域連携センター 副センター長 大村 早代

JR札幌病院 間違い探しゲーム

ほつとネット56号当選者発表



JR札幌病院 基本理念

心の通う医療
信頼される医療
地域社会に貢献する医療

基本方針

1. 社会のニーズに合った専門的な医療を提供するよう、医療技術の向上に努めます。
2. 患者様の権利を尊重し、プライバシーを守ります。
3. 地域の各機関との連携を重視し、地域医療に貢献します。
4. JR北海道の職域病院として、社員・家族の健康増進に寄与します。



H29.10.6 日本医療機能評価機構より
3rdG : Ver.1.1の認定を受けました。

JR 札幌病院
JR SAPPORO HOSPITAL

JR札幌病院
ホームページ
QRコード





新年のご挨拶

年頭に当たり謹んで新春のお慶びを申し上げます。旧年中は格別のご厚情を賜り、誠にありがとうございました。

2019年12月に発生した新型コロナウイルス感染症(COVID19)が、世界的に流行し、昨年は北海道においても4月から6月の第4波の流行で、多くの高齢者が罹患し、COVID19に対する医療体制も逼迫状態となりました。当院においても、多数の入院対応をいたしました。その4波の中においても、外来診療の合間に、高齢者からワクチン接種が開始し、多くの掛かり付けの患者さんにワクチンを接種することができました。その結果、8月から9月の第5波の流行では、高齢者の罹患が少なくなり、治療法の開発もあり、抗体カクテル療法の恩恵も受け、何とか乗り切ることができました。10月1日から緊急事態宣言も解除され、11月になっても、北海道の感染者数は少ない状態が維持されております。2022年もこのような良い状況が続くことを願っています。

以前から掲げている目標である地域に根ざしたより良い医療の提供と信頼される人間医療をめざしており、多くの専門の診療科を有する総合病院として、双方向性の病診連携、病病連携を深めていくことに、コロナ禍においても努力して参ります。今後も、医療機関では感染防止対策が重要な課題となっており、当院でも可能な限りの対策を講じております。院内感染防止対策や医療事故防止対策をしっかりと行い、急性期機能を中心とした医療を継続して参りたいと

考えております。

昨年にCTを2台更新し、迅速に診断できるように外来診療機能を充実させ、より良い医療が提供できるよう努力しております。さらに、患者さんを紹介して頂くために、種々の取り組みを行っております。呼吸器領域および消化器領域のがん診療を充実させ、北海道がん診療連携指定病院となっており、地域の諸先生からがんでお困りの症例に関しても対応できる体制を整えておりますので、ご相談、ご紹介よろしくお願ひいたします。加えて、急性期医療を充実させるために、より重篤な症例の入院治療が必要な患者さんの応需のために、ハイケアユニット(HCU)を2017年4月から開設し、循環器内科、外科、消化器内科、呼吸器内科で行っている救急対応をさらに充実させております。また、2021年7月からプライマル科を新設し、救急搬送患者の対応を開始しました。多くの取り組みは地域医療連携センターを介して行っておりますので、ご不明な点、詳細に関しては地域医療連携センターにお問い合わせください。

今後も諸先生の御支援を頂きながら、地域に根ざしたネットワークの構築を目指していきたいと考えておりますので、御協力よろしく御願い致します。

末筆ながら、諸先生がご健勝で活躍されることを御祈念申し上げます。



院長
四十防 典晴



特集

薬薬連携



薬剤科
薬剤師
菅野 慎哉

「薬薬連携」とは

病院・診療所の薬剤師と保険薬局の薬剤師が、患者さんの薬に関する情報を共有することで入院中・退院後を問わず安全に薬物療法が行われるようサポートする取り組みのことです。情報を共有する手段として「お薬手帳」と「トレーシングレポート」があります。お薬手帳は主にアレルギーや副作用歴などの基本情報と受診毎の処方内容などが時系列に記載されます。また、トレーシングレポートは保険薬局の薬剤師から病院・診療所へ向けて出される連絡書で、服用状況や副作用発現状況が記載されます。

薬薬連携のメリット

外来通院治療を行う上で、患者さんへの適切な薬物治療の提供とその安全性を確保していくために、医療施設と保険薬局との情報共有が不可欠となります。しかし、保険薬局において治療内容を知る術が処方せんしかなく、治療の全体像を知ることは困難です。薬薬連携を図ることで、例えば注射薬抗癌剤の治療スケジュールの把握や副作用の確認、注射薬と内服薬の相互作用等をチェックすることが保険薬局でできるようになります。いち早く患者さんの状態を知ることで、安全に治療を進めていくことができます。もし何か問題点があれば、かかりつけの保険薬局から医療施設へ情報をフィードバックすることで、主治医にその情報を伝えることができ、次回の診察に反映することができるようになります。

薬薬連携の取り組み

当院では入院時の情報共有のためにお薬手帳を活用しています。お薬手帳を活用することで、患者さん自身だけでなく、医療従事者も様々な診療科の薬や一般用医薬品、健康食品、アレルギー等の情報を簡便に共有する

ことが可能です。退院時には処方された薬の手帳シールと薬剤情報(用法用量、薬効、主な副作用を記載)を必ず発行して、追加・中止などの変更が明確になるように情報提供しています。

また、お薬手帳の新たな活用方法として、外来で抗がん剤治療を受ける患者さんが多くなる中で、抗がん剤の治療計画(レジメン)についての情報を保険薬局へ提供する取り組みも昨年7月から行っています。外来化学療法室で注射薬抗がん剤治療を受ける際に、吐き気止めなどの支持療法を含めた点滴内容と副作用の発現状況を記入した「外来化学療法情報提供書」をお薬手帳に貼付するとともに、院外処方せんには直近の採血データを印字することで保険薬局に情報を提供しています。この提供書をもとに保険薬局の薬剤師が副作用状況把握のための電話サポートを実施してトレーシングレポートを返信する流れができました。今年の10月から循環器腎臓内科でも連携を充実させるため、精査・加療入院で変更になった治療薬の内容を当院からかかりつけ薬局に情報提供する試みを開始しました。

これからも近隣薬局、かかりつけ薬局の薬剤師と連携して安心して治療を継続できるように取り組みを進めていきます。お薬に関して何か疑問がありましたら、遠慮なく薬剤科にお声掛けください。今後ともよろしくお願いします。



診療科発

産婦人科の紹介

はじめまして。4月からJR札幌病院で勤務している産婦人科の山中郁仁です。

このたび、広報誌に産婦人科に関する記事を掲載する機会を与えていただきましたので、皆さんに自己紹介を含めてJR札幌病院の産婦人科を紹介したいと思います。

女性の人生は、月経、妊娠、分娩、授乳、更年期、閉経後とダイナミックに変化が訪れます。女性の一生を通して女性の健康を支えるということが産婦人科医として目指すべきことだと考えています。幸いなことに、私は、いくつかの病院で修練させていただき、周産期医学、婦人科腫瘍学、生殖医学など幅広く勉強できる機会を得て婦人科腫瘍専門医及び周産期専門医の資格を得ることができました。また多数の婦人科手術を経験し、婦人科手術が必要となった場合に、開腹術よりは低侵襲な腹腔鏡手術をより安全に提供できるように、腹腔鏡技術認定を取得しました。それにより婦人科手術の大半を腹腔鏡下手術にて行うことが可能であると思っています。また従来開腹手術で行われてきた子宮悪性腫瘍手術（子宮体がん、子宮頸がん）についても、一定の基準を満たせば腹腔鏡下手術を行うことが可能です。より高いクオリティーを目指した腹腔

鏡手術を中心として、子宮鏡手術や薬物療法も行っています。それにより患者さんに最適な治療法を提供できるのが当科の特徴だと考えています。



産婦人科
科長
山中 郁仁

現在、産婦人科で勤務する医師は私一人です。外来は毎日午前中のみですが子宮筋腫や卵巣腫瘍などで手術が必要な方、月経異常でお困りの方、不妊症の方、更年期の諸症状でお悩みの方、骨盤臓器脱症状（子宮脱など）の方、子宮がん検診希望の方、妊娠の可能性がある方、避妊相談など、幅広く相談に乗らせていただきます。手術の際には札幌医大産婦人科の医師及び私が以前一緒に勤務した信頼できる医師が応援に来てくれています。

また、手術患者さんをご紹介いただく他施設の先生方に大切な患者さんをお預かりいたします故、ご希望がございましたら手術と一緒にご覧いただくことも可能です。手術後は患者さんが希望されれば紹介していただいた先生に引き継がせていただきます。早期の手術を希望される患者さんにも可能な限り対応させていただきます。

それでは今後とも産婦人科をよろしくお願いします。



産婦人科外来スタッフ



産婦人科手術風景

部門紹介

リハビリテーション室の紹介



リハビリテーション室
技士長
夏目 健文

病院に入院すると、まずベッド上で安静になりますが、過度に安静にしたりあまり身体を動かさなくなると、筋肉がやせおとろえ関節の動きが悪くなります。この寝たきりを含めた「不活動状態により生ずる二次障害」を「廃用(はいよう)」と呼びます。

この廃用の進行は早く、特に高齢者はその現象が顕著です。1週間寝たままの状態を続けると、10~15%程度の筋力低下が見られることもあります。高齢者では2週間の床上安静で下肢の筋肉の2割も萎縮するともいわれています。そして、回復するためには廃用に陥っていた期間の数倍の期間が必要となります。

このような廃用を防ぐために、早期からリハビリテーション(以下、リハビリ)を行うことが勧められています。

日本は国民の4人に1人が65歳以上という超高齢社会を迎えており、当院でリハビリテーションを受けられる患者さんも高齢者が増加している傾向にあります。リハビリは今、骨折などの整形外科の患者さんだけではなく、内科や外科など入院しているほぼすべての科の患者さんが対象となっています。

リハビリは、脳血管疾患等疾患・運動器疾患・呼吸器疾患・心大血管疾患・がん・廃用症候群に分けられますが、当院ではそのすべての疾患に対応できる専門職がいます。

リハビリ室には、理学療法士12人、作業療法士2人、言語聴覚士1人があり、それぞれの専門性を生かしチームとして患者さんにリハビリを提供しています。

理学療法士は、リハビリといえばすぐ思い浮かぶ、関節を柔らかくする関節可動域訓練や足や手の力をつける筋力訓練、歩行訓練などを行う専門職です。

作業療法士は、日常生活動作の工夫や生きがいや役割活動の継続などを支援する専門職です。そのアプローチでは、「日常生活」の自立や安定を目指します(日常生活とは食事、服の着替え、トイレ、入浴、買い物、外出などを指します)。

また、認知症を患った人は、発見・診断される過程で「できなくなったこと」に注目され自尊心の傷付き・抑うつ症状がみられ、リハビリに対して拒否感を持つことも少なくありません。作業療法士のアプローチ法は、「できること」や「なじみの作業」に着目し作業療法に取り入れることで、作業(活動)の喜びや自尊心の回復などを促す効果があります。記憶障害や見当識障害などの中核症状の改善は難しいですが、徘徊や興奮、意欲低下など周辺症状は作業活動や環境調整など作業療法士が得意とするアプローチで改善が期待できます。

言語聴覚士は、摂食嚥下障害(「摂食」は食事を摂ること、「嚥下」は飲食物を飲み込むことをさす)の患者さんに関わる専門職です。

高齢者の場合、加齢とともに歯が欠損する、舌の運動機能が低下する、咀嚼(そしゃく)能力が低下する、唾液の分泌が低下する、口腔感覚が鈍くなる、咽頭への食べ物の送り込みが遅くなるなどの機能的な変化が摂食嚥下障害を起こす原因となります。これらに対して、口腔ケア、基礎(間接)訓練(食べ物を用いない訓練で、喉の動きを改善するために行う)、摂食(直接)訓練(実際に食べ物を用いて行う訓練です)などを行います。

これら3つの専門職が、時には患者さんへ同時に介入し、個々の患者さんが入院計画通りに自宅へ退院できることを目指してリハビリを提供しています。



リハビリテーション室スタッフ



医療法人社団 モリタ内科胃腸科クリニック

院長 森田 幸悦 先生



札幌医大第四内科(現 腫瘍血液内科)の先輩である中野良昭先生が開設された、“旧 なかの内科胃腸科クリニック”を平成12年に継承開業して以来、22年が経過しました。

当院は、地下鉄大通駅から徒歩約2分の場所に位置する、ビル開業のクリニックであり、近隣でお勤めの方をはじめ、札幌市内の各地から来院される方々が中心ですが、中には函館・岩見沢・恵庭・北広島・中標津 等の遠方から来て下さる患者様もいらっしゃいます。

主な診療内容としましては、上部内視鏡(胃カメラ)・下部内視鏡(大腸カメラ)・超音波(エコー)検査・X線検査などによる、消化管疾患の早期発見・早期治療をはじめ、肝炎・肝硬変・脂肪肝などの肝疾患、胆囊・脾疾患などの検査・治療を積極的に行ってています。

さらに、高血圧、糖尿病、脂質異常症、高尿酸血症等の生活習慣病や、喘息、慢性閉塞性肺疾患(COPD)、甲状腺疾患、風邪様症状、インフルエンザ等の診断・治療および各種健康診断、特定健診にも対応しております。

因みに当院ではピロリ菌の除菌治療も行っていますが、除菌後の胃から発生する胃がん、ピロリ菌未感染胃からの発がん、さらにA型胃炎(自己免疫性胃炎)等も最近の問題となっております。

また、メタボリックシンドロームを基盤に発症する、非アルコール性脂肪肝炎(NASH)から肝硬変や肝臓癌(非B非C型肝癌)を発症する方も徐々に増加しており、ますます慎重な生活習慣病等の予防的治療が望まれるところです。

当院でも御多分に洩れず、高齢化に伴い“フレイル”や“サルコペニア”等により身体的・精神的・社会的な活力が衰え、また認知機能の低下する方も増えており、そのような患者様の身になっていかに早く適切に介入し、しかるべき方策をとるかという喫緊の課題も持ち上がっています。

立地が比較的近いこと也有り、JR札幌病院様には札幌鉄道病院の時代から各科の先生方に様々な患者様の紹介・検査・診断・治療・手術等を快く受け入れていただきお世話になっており、大変感謝しております。

この2年間の新型コロナウィルスの影響で、医療状況、経済動向、人流、行動変容も激変し、コロナ禍の出口が未だはっきりと見通せない中、いつか霧の晴れる日を期待しつつ、JR札幌病院様には今後ともさらなる連携をよろしくお願いしたいと存じます。



医療法人社団 モリタ内科胃腸科クリニック

〒060-0061 札幌市中央区南1条西4丁目5番 大手町ビル6F

TEL 011-222-6667

院長 森田 幸悦

診療科目 胃腸・消化器科、一般内科、健康診断

診療時間 月・火・木・金曜日 9:00~13:00、14:00~17:30

水・土曜日 9:00~12:00(第一土曜日を除く)

休診日 曜日、祝日、第一土曜日

連携医療機関を対象としたアンケート調査の結果報告



地域連携センター
副センター長
大村 早代

当院では、連携医の先生方のご意見を反映したより良いサービスを提供するため、昨年9月にアンケート調査を実施しました。その結果についてお知らせ致します。尚、ご回答いただいた連携医の先生方におかれましては、ご協力いただき、ありがとうございました。

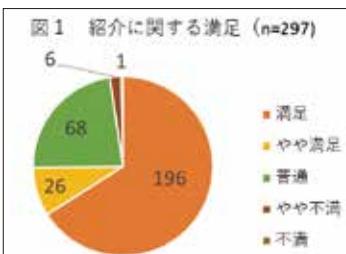
【調査概要】

- 1.調査目的 連携医療機関の当院に対する要望や意見などを把握し、より良いサービスの提供及び地域連携推進に役立てる。
- 2.調査期間 令和3年9月
- 3.冊子「診療科紹介」にアンケートを同封し、郵送にて回答を得た
- 4.回収状況 道内連携医療機関など570施設へ発送、322施設より回答
回答率56.5%

1. 紹介に関する満足について

紹介に関しては「満足」「やや満足」が75%、「不満」「やや不満」は2%を占めていました(図1)。

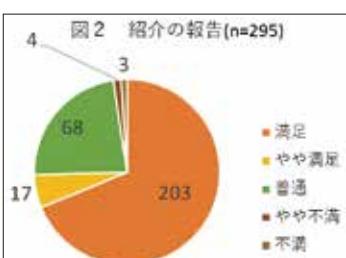
不満の理由として「手続きがわかりにくい」「予約までに時間がかかる」「医師の説明不足」などがあげられました。手続きの簡素化及び十分な説明ができるよう改善策を検討していきたいと思います。



2. 患者さんの報告(返書等)について

「満足」「やや満足」が75%で「不満」「やや不満」は2%を占めていました(図2)。

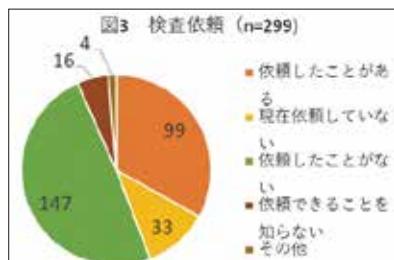
紹介状の返書に関しては「満足」「やや満足」が75%で「不満」「やや不満」は2%を占めていました(図2)。不満内容



としては「報告の送付が遅い」「内容がわかりにくい」「手術所見、報告をもう少し詳しくして欲しい」「たまに病理レポートが添付されていないことがある。」等が挙げられていました。報告書類の添付を行い、迅速に対応できるよう改善に取り組んで参りたいと思います。

3. 検査の依頼について

検査の依頼については「検査を依頼したことがない」が半数を占めています。また、「検査をできることを知らない」方も6%い



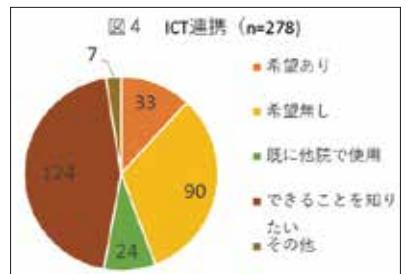
ました(図3)。

今後は訪問活動等を通じ、具体的な内容把握と説明に取り組んで参りたいと思います。

4. ICT連携について

ICT連携*については「できることを知りたい」が約半数以上占め、「希望がない」方も30%強となっています。(図4)

当院ではまだ活用に至っていませんが、連携医の皆様と学ぶ機会を作り、今後の活用に向けて努力していきたいと思います。



* ICT連携: 地域の医療機関などの間で、患者の情報をICT(情報通信技術)を活用して共有するネットワークを構築し、医療サービスの質の向上や効率的な医療の提供を実現すること。

5. 改善すべき点・要望について

- ・医局の合同カンファレンスや勉強会などに参加出来る機会が増えれば連携が増えるかと思います。
- ・可能なら自分の勉強の為、CTのCDを入れてくれるとありがたいです。
- ・当院の紹介患者さんが貴院に対して、対応(説明不足等々)が悪いので直してほしいとの事です。
- ・まず患者を診る。そして無理なら他へまわす。
- ・もう少し顔の見える連携にする必要があるでしょう。
- ・もう少し早く予約が取れればと思っています。
- ・○○科の△△医師の対応に不誠実を感じているので、紹介してください。
- ・■■先生、●●先生、いつも救急患者を受け入れて下さり感謝します。
- ・患者さんからもJR病院さんに紹介してもらってよかったですと感謝されています。
- ・この程度の所見、症状で紹介してよいのか?と思うような患者さんでも丁寧に診て頂いています。
- ・この様なアンケートを行うこと自体、他院では見られない正しい姿だと思う。

多くのご意見・ご要望を頂き本当にありがとうございました。連携医の先生方からのお声を反映できますよう当院ではより一層努力して参りたいと思います。

クイズに答えて
景品を当てよう!!

JR札幌病院
間違い探しゲーム

2つの写真から、5つの間違いを探そう!
正解者には、抽選でクオカードがもらえるよ
息抜き、暇つぶし、頭の体操にやってみよう~



応募要項

応募期間:令和4年2月1日～2月28日

応募方法:応募用紙の写真の間違い箇所に○を入れ、地域医療連携センター前に設置の応募箱へご投函、又は、紙面上の写真を切り取って(コピーも可)○を記入し、住所・氏名を記載の上郵送でご応募ください。

応募先:〒060-0033 札幌市中央区北3条東1丁目 JR札幌病院 地域医療連携センター

※氏名の公表を希望されない場合はペンネームを掲載いたします。

発表方法:広報誌『ほっとネット』紙面上にて発表いたします。

ほっとネット56号当選者発表

5つのまちがいは



雲と月の部分を分けて6つとしても正解とします

応募総数 28人

抽選の結果、次の5名の方にクオカードをお送りいたします。
大村汐音 様、小島柚璃 様、ジュンちゃん 様、
のっち☆ 様、はるくん 様

編集後記

2022年の今年、2月4日から17日間の予定で「北京冬季オリンピック」が開催されます。(大会マスコットはジャイアントパンダ)まだまだ季節は寒いですが、この大会期間中は代表選手の活躍に沢山の感動をもらい、テレビの前で熱い声援を送りたいと思います。

がんばれ、日本! (paix)

発行日／2022年1月31日

編集長／長谷川 徹

編集者／安藤 和馬・石澤 隆彦・大村 早代・小原 健太郎・河野 通晴
寺田 基・中澤 英之・藤原 和希

発行所／札幌市中央区北3条東1丁目

JR札幌病院 広報誌企画編集委員会

<https://hospital.jrhokkaido.co.jp/>